

2012年(平成24年)

10月4日(木)

第18106号
Since 1936

日刊

産業新聞

Japan Metal Bulletin

コバルト

コバルトの下半期の国際相場は現状とあまり変わらず、99・3%でポンド12-14ポンド、99・8%で13-15ポンドを推移しそうだ。

欧州情勢や中国の景気減速による製造業の停滞を映して、コバルトの世界需要も落ち込んでおり、最大消費国である中国国内の在庫余剰も続いている。国際相場は今春から低位横ばいのままだが、レンジを脱する強材料が見当たらないのが現状だ。

強材料乏しく12-15ポンド推移

需要分野別に見ると、リチウムイオン電池は携帯端末や自動車向けで、上半期ほどの伸びは見込めない。正極材のコバルト離れも着実に進んでいて、相場が下がったところで需要が戻ることはない。唯一、スーパーアロイ(高強度耐熱合金)向けは好調なので、12ポンド以下では買い支えられるだろう。

主産地のコンゴ民主共和国は、生産障害もなく安定している。紛争鉱物(コンフリクトメタル)にコバルトも含まれるとの見方もあるが、可能性は低い。



メタルドウ社長
藤田國廣氏